



会報

全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会

第 48 号

発 行 者
全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会
会長 万里小路伸一郎

事務局
京都府八幡市男山美桜5-27
昌玉研修会館内

印 刷
山代印刷株式会社

真価を発揮するPTA

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会
会長 万里小路伸一郎



昨年、私たち日本人が未曾有の試練を受けて、まもなく二年が過ぎようとしています。

改めて、東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに、被害に遭われた方々、未だ癒えぬ大きな心身の傷を負わされている方々、また今なお不自由な生活を送られている皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

また、会員の皆様には、本会と全国国公立幼稚園長会共同で行いました義援金募集活動やその他の支援活動に多数ご協力頂きましたこと心から感謝申し上げます。

この震災で気づかされたこのつに、日本人の優しさと思いやりがあります。道徳心や規範意識の低下が指摘されてきましたが、決してそんなことは無く、私達が祖先から受け継いでいる日本人の人の思いやる心根は健在であると確信しました。

その礎を築くのが幼児教育です。そしてその幼児教育を維持し、実践してきたのが国公立幼稚園とそのPTAであると考えます。

震災で、社会構造・システムや制度の歪が明らかにになり、それらの改革も確かに重要ですが、明日の日本を担う子どもを守り育てることが、すべての復興に繋がるのであり、その為に、私たち国公立幼稚園のPTAがその真価を発揮することが期待されると思います。

そのような中、本会は今年の八月設立五十周年を迎えます。

今年の全幼P全国大会東京大会では、半世紀に亘る先人の努力とご苦労に思いを寄せ、その功績に感謝すると同時に、次の半世紀に向けて、私達がなすべきことを再確認していただくような大会を目指しています。

園の統廃合や「子ども子育て新システム」等問題は山積しておりますが、皆様がPTA活動を決して後退させること無く、その真価を遺憾なく発揮していただくことを願って止みません。

被災地の幼稚園では、少しずつ復旧が進んでいるとお聞きしています。本会は、この経験を風化させること無く、末永く支援を続けたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

平成23年度優良PTA文部科学大臣表彰

平成23年11月18日(金)、文部科学省3階講堂において、表彰式が行われ、下記の9団体が、日頃の功績を称えられ、表彰状が送られました。

- 群馬県 東吾妻町立岩島幼稚園PTA
- 東京都 品川区立台場幼稚園PTA
- 静岡県 磐田市立田原幼稚園PTA
- 静岡県 焼津市立静浜幼稚園PTA
- 大阪府 堺市立第一幼稚園PTA
- 岡山県 備前市立神根幼稚園PTA
- 徳島県 鳴門市立精華幼稚園PTA
- 愛媛県 大洲市立喜多幼稚園PTA
- 佐賀県 佐賀市立本庄幼稚園PTA

おめでとうございます。

東日本大震災義援金募集活動のご報告

- 3月12日 大関副会長岩手県山田町調査
- 3月16日 義援金募集活動開始(全国国公幼園長会と共同)
- 3月18日 岩手県に支援物資(幼児用下着・毛布等)搬入
- 4月20日 被害調査開始
- 5月10日 被災5県に第一次義援金配布(総額3,560万円)
 - 岩手県(5万円×61園) 3,050,000円
 - 宮城県(5万円×113園) 5,650,000円
 - 福島県(5万円×207園) 10,350,000円
 - 茨城県(5万円×178園) 8,900,000円
 - 千葉県(5万円×153園) 7,650,000円
- 6月 9日 岩手県幼Pに支援金(10万円)送金
- 11月 被害重篤15園確定、希望支援物資調査・調達重篤園支援のための義援金は、12月20日現在、11,000,000円集まっています。

ご協力ありがとうございます。

特別寄稿

子どもと共に行



文部科学省初等中等教育局
幼児教育課教科調査官

津金 美智子

私の地元の新聞に、「木馬の時間」というタイトルで俵万智さんのエッセイが連載されています。子育ての中で、お子さんの言葉や行動を通して、はつたりとしたことなどが、鮮やかに述べられていて、私の楽しみにしている連載です。それを読むたびに、俵万智さんのお子さんへのまなざしが、まさに幼稚園における幼児の言動を理解しようとする私たちと同じ感覚でいらつしやることにうれしくなるのです。

母でありながら、さすがが歌人でいらつしやいます。俵さんの言葉を引用すれば、「赤ん坊だった息子が言葉を獲得してゆく過程は、ほんとうにおもしろく、言葉好きの母としては、まさに観察のしがいがありました」とのことです。

しなやかな感性でお子さんの言葉と行動をとらえ、共に楽しみながら、まさに子どもの特性や幼児期に大事にしたい感性の豊かさをずばり、言い得ていらつしやるのです。

前へ進まなくても…。そんな「木馬の時間」のなから、言葉をつむいでいきたい。」
「まずまず、私はこの「木馬の時間」に、心惹かれてしまいました。
子育てで大変で思うようにいかないことばかりですが、子どもの心と共に歩むことによつて見えてくる心の豊かさにも出会えるのではないのでしょうか。」

幼稚園では、子どもの遊びに保護者の方々にもかかわっていただき、一緒に遊ぶ中で、子どもの本来の姿をしっかりと見ていただく機会をつくっていきます。その時間を通しての感想をお聞きしたことがあります。次のような声を聞かせていただきました。

【5歳児の母親より】
いつも、帰りに見せてくれる泥だんごと一緒に作りました。とても得意気に友達と「この砂がいいんだよ」などと言いながら「生懸命作っている様子が見られ、それぞれのだんごを作りながらも、互いのを見せ合ったり、白砂の場所を教え合ったりと、友達とかかわりながら遊ぶ姿も見られました。だんご作り「一つでもこんなに友達とかかわっているんだなと感じました。」

一時間かけて、ようやく光らせようとしていた矢先に落として割ってしまった。又、私にも見せたいという思いも重なって悔しくて泣いてしまいました。それだけ、子どもにとって大事なだ

んごというものが分かり、今まで簡単に「また、作つたら？」と声を掛けていた自分もいけなかったなあと反省しました。
一緒に二時間かけて、だんご作りをしたことで、子どもの真剣な思いを知ることができました。又、あまり集中力がないと思っていた我が子が、こんなにじつくりと取り組めるんだなとうれしく思いました。

【3歳児の母親より】

一緒に七夕の笹飾りを製作していた時のことです。
紙にもあがる程、たくさんののりをつけてしまった子どもが、それを見て私に、「アイスクリームみたいだねー」と言いました。私も「そうだねー」ところで、ちよつと溶けそう。」などと言葉を返したのですが、子どもは、隣の席のお友達にも「生懸命、話しかけていました。お友達は製作に集中していたので、「ふーん」程度の反応だったのですが、子どもはしつこく話しかけていました。

私が子どもにも共感するだけでは、もの足りなくなってきたのか、お友達や先生と自分の気持ちをもっと共感したいと思つているようで、家の人以外へと意識が向き始めているのかなと思ひました。
【4歳児の母親より】
内気で友達と輪になかなか入ることができない我が子も、遊びを通して少しずつクラスのお友達の名前を覚えて帰つてくるようになりました。

お友達とトラブルになり、悲しくて泣いている我が子を見て、子どもも外の世界で、すぐくがんばっているんだとつくづく感じました。私にできることは見守つてあげることと、子どもが安らぎを感じるような家庭をつくることかなあといういろいろ考えさせられました。家の中ではガミガミと叱つてばかりではいけないね…。これからは娘の話にもつと耳をかたむけようとして反省しました。

どの保護者からも、共に過ごした子どもとの時間を大事にしていたただけでなく、その中で見た子どもの発達の様子、友達への感じ方や物のとらえ方などに、心を寄せていただいていることが分かります。そして、今まで何気なく見ていた、お子さんの姿のきらりと光るものをとらえ、普段、忙しさの中で見過ごしていたことを感じていらつしやいます。この気付きこそ、子育ての大事なことであり、子どもの素朴さの中に光る素晴らしさに触れることで子育てへの思いも違つてくるのではないのでしょうか。そして、何より、一番身近な人が自分に寄り添い、共に感じていくれることを喜んでくれるのは子どもなのです。
子どもの心と共に歩む子育て、どうぞ、大いに心を揺らし、共に楽しんでください。

引用文献
俵万智著「ちいさな言葉」(岩波書店)

第四十九回全国国公立幼稚園PTA全国大会 総会ならびにシンポジウム

大阪大会

大会報告

いにしえより日本の経済・文化の中心地として栄えてきた、活気あふれる大阪市において全幼P「大阪大会」が文部科学省をはじめ、全国各地から過去最大の二七〇〇人を超える参加者のもと、盛大に開催されました。会場入口のポスターセッションのコーナーでは、大阪八十九園の特色あるPTA活動が紹介され、参加者の目を引きつけていました。今年度、総会は来年度の東京大会を見据えて第一目に行いました。第二日は開会に先立ち、三月十一日の東日本大震災により、被災された方々の冥福を祈り、全員で黙祷を捧げました。開会式は大阪市のPTA会員による司馬遼太郎氏の「二十一世紀に生きる君たちへ」の朗読に始まり、国歌独唱、PTAの歌、全幼P会長表彰式へと続きました。会場には、次代を担う若者たちへの力強いエールと、被災地の一日も早い復興を願う温かい雰囲気がいっぱいにあふれました。

大会主題に基づき、三園から家庭・幼稚園・地域がつながるPTA活動の実践が発表され、参加者に大きな感動を与えました。文部科学省

大会要項

一 大会主題

いま「二十一世紀に生きる君たちへ」
人をつなぐ 時をつなぐ
OSAKAの心

二 期日・会場

平成二十三年
八月三日(水)・四日(木)
大阪国際会議場

三 日程

八月三日(水)	八月四日(木)
・会計監査	・開会式
・役員会	・表彰式
・理事会	・文部科学省講話
・総会	・提案発表
・情報交流会	・コンサート
	・シンポジウム
	・閉会式

第四十九回「大阪大会」 表彰状・感謝状受賞者(敬称略)

全幼P会長表彰

元全幼P副会長

岩手県 齊藤博孝

香川県 上枝秀則

福岡県 人見隆文

前全幼P監事

岡山県 角屋純子

全幼P会長感謝状

愛媛県国公立幼稚園
PTA連合会



平成二十三年度活動方針 ならびに事業計画

一 活動方針

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、結成以来、日本の子どもの幸せと未来を保障するため、幼児

教育の振興に、さまざまな形で寄与すべく活動を続けてきた。
また、幼児の育成に関わるものとして、自らの責任を自覚し、資質と見識の向上に不断の努力を傾注してきたと自負するものである。

しかし、現下の幼児を取り巻く環境は、少子化、価値観の多様化に加え、世上の幼児教育に対する理解不足のため、看過できない問題が山積している。

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、学校教育・生涯教育の原点は幼児教育にあることを再確認するとともに、全国の国公立幼稚園においてなされている教育が幼児教育の最上のものであると確信している。私たち保護者・教師は、幼児育成の直接の当事者である責任を認識し、全国国公立幼稚園長会との連携を密にして、以下の項目の実現を目指した行動の推進を活動方針とする。

- 記
- (1) 義務教育化を前提とした幼稚園教育の充実
 - (2) 家庭・地域の教育力の向上
 - (3) 会員の資質向上と組織強化
 - (4) 国公立幼稚園教員の待遇改善

二 事業計画

四月～五月

- 加入園へ会費納入と大阪大会案内状発送
- 未加入園へ加入依頼書と大阪大会案内状発送

- 平成22年度会務決算報告書作成
- 平成23年度理事名報告依頼
- 平成23年度陳情書作成
- 全幼P全国大会大阪大会後援名義使用許可願発送(文科省・園長会)
- 大阪大会の助言者依頼
- 六月～七月
- 第62回全国国公立幼稚園長会総会(広島にて本会発展の協力依頼)
- 陳情(文部科学省)
- 副会長会(東京)
- 平成24年度「東京大会」における提案発表について依頼
- 第58回全国国公立幼稚園教育研究協議会「千葉大会」会長出席
- 八月～十二月
- 会計監査、役員会第1回理事会総会
- 第49回全幼P全国大会(大阪)
- 大阪大会決定事項の処理
- 会報(48号)原稿依頼
- 第50回全国国公立幼稚園PTA全国大会実施説明会(東京)
- 全幼Pアンケート実施
- 平成24年度活動方針・事業計画書案と予算案作成
- 第2回理事会(京都)
- 理事会での検討事項の処理
- 一月～三月
- 会報48号発行
- 未加入園へ加入呼びかけ
- 平成23年度会務報告と決算の中間報告書作成
- 第3回理事会(東京)
- 理事会での検討事項の処理

平成二十一年度会務報告

(平成22年4月～平成23年3月)

月日	摘要	月日	摘要
4月1日	●入会並びに会費納入についての文書(加入園)本会入会文書(未加入園)発送 ●平成22年度理事名報告依頼(都道府県事務局) ●愛媛大会開会式臨席と祝辞依頼(全国園長会長他) ●愛媛大会最終案内発送(全幼P顧問 役員)	6日	5 次期大会開催地提案案について 6 役員改選 ●第48回全国国公立幼稚園PTA全国大会「愛媛大会」開催(開会式・総会・研究協議会・講演閉会式) ●全国大会礼状発送(文部科学省・全国園長会長 全幼P顧問・大会開催地) ●会報(47号)原稿依頼 ●第2回理事会案内状発送 ●平成23年度「大阪大会」における提案発表について依頼(京都・兵庫・熊本) ●全幼Pアンケート実施依頼状発送(加入園) ●第50回東京大会開催について宮内庁に依頼
4月7日	●愛媛大会開会式臨席依頼(文部科学省・全国園長会長 全幼P顧問) ●愛媛大会研究協議会助言者推薦依頼(文部科学省生涯学習政策局長) ●愛媛大会開会式臨席と祝辞依頼(文部科学大臣) ●大阪府国公立幼稚園長会議(会長) ●文部科学省表敬訪問 ●愛媛大会について後援名義使用許可申請書提出(文部科学省)	11日	●第49回全国国公立幼稚園PTA全国大会大阪大会実施説明会(大阪) ●京都市立幼稚園PTA連絡協議会講演(会長) ●文部科学大臣表敬訪問
4月8日	●平成22年度陳情書発送(加入園) ●陳情について依頼(文部科学省) ●兵庫県国公立幼稚園PTA連絡協議会講演(会長) ●陳情並びに副会長会案内状発送 ●子ども子育て新システム検討会議について全国園長会長と懇談(東京)	13日	●副会長会 ●第2回理事会開催(京都市) 1 幼保体化政策に反対する請願署名活動について 2 平成22年度「愛媛大会」について 3 平成23年度「大阪大会」について 4 今後の全国大会開催案・提案案について 5 平成23年度活動方針・事業計画(案)について 6 平成23年度陳情項目(内容)について 7 アンケート調査について 8 ブログ別会議 9 その他
4月12日	●第1回理事会並びに役員会開催案内状発送 ●第61回全国国公立幼稚園園長総会「研究大会」兵庫大会で本会発展の協力依頼(会長) ●日本教育会全国大会会長出席(愛知)	19日	●滋賀県国公立幼稚園園長研修会指導助言(会長) ●大阪大会第二次案内・愛媛大会集録会報47号発送(文部科学省) ●大阪大会第一次案内・愛媛大会集録会報47号発送(日本PTA全国協議会 全幼P顧問他) ●会報47号発送(愛媛・大阪大会事務局・寄稿者 全幼P理事加入園各園長会長他) ●東京大会開催について依頼(東京大会今井運営委員長)
4月19日	●愛媛大会研究協議会助言依頼(全国園長会長) ●陳情並びに副会長会案内状発送(東京) ●文部科学省 ●陳情先 ●文部科学省	29日	●第3回理事会開催(東京都) 1 平成23年度大阪大会について(大会宣言文案) 2 平成22年度会務決算中間報告 3 平成23年度活動方針・事業計画(案)について 4 平成23年度予算(案)について 5 子ども子育て新システム検討会議について 6 表彰状・感謝状受賞者について 7 平成24年度東京大会について 8 平成25・26年度提案案について 9 その他
4月28日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告	30日	●東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)義援金納入について全国園長会長と共同で依頼(各園長P会長)
5月7日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告	31日	
6月1日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告		
7月2日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告		
7月7日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告		
7月26日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告		
7月25日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告		
7月16日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告		
8月5日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告		
8月29日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告		
8月13日	●全幼P会計監査・役員会・第1回理事会開催(愛媛)理事會 1 平成21年度会務決算報告 2 会計監査報告 3 平成22年度活動方針・事業計画・予算の各案について 4 表彰状・感謝状受賞者報告		

大会宣言

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、「就学前教育の振興と環境改善」を使命に掲げ、第1回の「島根大会」から第48回の「愛媛大会」まで、幼稚園教育の充実に向けて、数々の実績を積み上げてきました。近年では、「家庭・地域・幼稚園の教育環境の充実」「PTA活動を通しての生涯学習意欲の向上」「PTA組織およびその運営の充実」「幼児の安全確保と幼稚園の安全管理の強化」「幼稚園を取り巻く諸条件の整備」に力を注ぎ、健やかな子どもの育成に向けて活動を展開してまいりました。

しかし、めまぐるしい社会情勢の変化に伴い、子どもたちを守り育てべき大人が多様な情報や価値観に翻弄され、そのために、子どもたちが犠牲になるという出来事が続発していることは看過できません。今こそ、私たちは、次代を担う子どもたちに、燦々と輝く未来を約束しなければなりません。

そこで、第49回「大阪大会」では、昔も今もそして未来においても変わらないこと、私たち大人がつかないでいかなければならないことは何かを考え、「いま『二十一世紀に生きる君たちへ』(～人をつなぐ 時をつなぐ OSAKAの心～)を大会テーマとしました。いたわり、やさしさ、思いやりなど、一人ひとり大切にしていきたい思いは様々ですが、このような「根っこ」となる心をしっかりとして自己の中で根付かせることは、私たち大人の役割です。私たちは、次代を担う子どもたちに、豊かな心とたくましく未来を切り拓く「生きる力」を育てていかなければなりません。

ここに、私たちは、支え合い、かかわり合い、つながり合うまち「OSAKA」から、全国の子どもたちに届くよう、「大阪大会」のメッセージを発信します。そして、第50回の「東京大会」へと、「OSAKAの心」をつなげていくことを宣言します。

平成23年8月3日

第49回 全国国公立幼稚園PTA全国大会 大阪大会

提案発表I

「ノーテレビ・ノーゲームデー」の取組

京都市立幼稚園PTA連絡協議会

平成二十一年度会長

春木 幹子



一 はじめに

京都市の十六園の公立幼稚園のPTA会員の代表が中心となり、京都市立幼稚園PTA連絡協議会(幼P)を運営している。全園の情報交流の場であること、各園単位では解決できないことを十六園が力を合わせて解決していく場であることを幼Pの目的としている。

二 幼稚園PTA連絡協議会から始まった「ノーテレビ・ノーゲームデー」

十四年前の地球温暖化防止会議で提出された京都議定書の効力発生が二月十六日ということにちなんで平成二十年九月から毎月十六日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」の日と定めた。子どもとのかけがえのない時間やコミュニケーションについて考え、

家族とのふれあいを通して、地球の未来のことも考えるきっかけになることを願い、活動は始まった。

三 平成二十一年度の取組

毎月十六日を「一緒に絵本を読もうデー」とし、子どもが楽しみながら継続して取り組めるよう「できたよーカード」を作成した。子どもと向き合う時間をもつことへの意識改革ができた。

「エコキャンドルナイト」の取組では、家族の時間をもつことの大切さ、遊びを見出すことの楽しさを感じることで、親子も子どもも一緒に地球環境を考えるきっかけとなった。



四 平成二十一年度の取組

取組状況を改めて見直した。アンケートからあがった具体的な課題を踏まえ、「できたよーカード」の改善と、趣旨がわかりやすい文言を工夫し子どもへ「のーてれびのーげーむでーのおてがみ」を作成した。

五 おわりに

幼P役委員はほとんどが一年で交代し、スムーズな引継ぎが難しい中、「ノーテレビ・ノーゲームデー」の活動は四年目に入った。

京都に住む自分たちが率先してエコ活動に取り組み、教育の始まりの場である幼稚園から発信していくことは多くの意味がある。これからはそれぞれの園の特色を活かし、二つの思いを形にできるよう協力できる幼Pでありたい。

提案発表II

「みとめ合い(愛)・よろこび合い(愛)・たかめ合い(愛)」

地域とつながる子育てリレー 兵庫東加古川市立野口幼稚園

平成二十一年度PTA会長

松井 美恵



一 はじめに

本園は加古川市の中心部に位置し、交通量の多い地域だが、自然も残されており、歴史のある建物も数多

くある落ち着いた環境にある。

一〇七名の園児の内、八十八%が核家族で、生懸命子育てをしているのに自信がもてず、子どもの友達関係に敏感になりすぎ不安に思う保護者が多い。

二 活動内容

「様々な人とふれあい、豊かな感情体験を積み重ねながら親子も共に育ち合う」を目的にし、地域の方も借りて取り組んだ。

年間を通しての「親子ふれあい広場」では、しんどいと感じていた子どもとのふれあいが楽しくなり保護者同士のつながりができてきた。

「みなのおとの座談会」「先輩ママと座談会」では、みんなて話をすることで子育てに悩んでいるのは自分だけではないとわかり気持ちが楽になった。また、世代が違う人と同じ視点で話し合うことで親自身が安定でき、共に子育ての振り返りの場となった。「老人クラブとの座談会」では、日頃お世話になっている老人クラブの方々と「子育て 今昔」をテーマにおしゃべり会をした。

様々な世代や立場の人とふれあい、話をすることで保護者自身の視野が随分広がり、つながる「広がる」ということを実感できた。他に「三世代ふれあい交流」など取組の紹介。

三 おわりに

取組を通して、子どもの成長や一緒に遊ぶ楽しさを感じ、「子育てって楽しいな」と思えるようになった。保護者同士のつながりが確かなものとなり、保護者の仲間関係の広がりが子どもへの仲間関係にいい影響を与えた。また、地域の人々の温かい支えと見守りの中で幼稚園があるのだと実感し、感謝の気持ちをもてた。これからは保護者が体験したたくさん喜びや学びを次世代につなぎ子どもの心をつないでいく取組を工夫し、地域とつながって子育てリレーをしていきたい。



提案発表Ⅲ

みんなで分担 みんなで子育て 次の出番は私です！

熊本市熊本市立熊本五福幼稚園

後援会会長 平田翔一



一 はじめに

本園は熊本市の中央部にあり、熊本城を望む旧城下町に位置している。近年マンションが次々と建設され、町の様子は変わってきた。

二 主題について

三十八名の園児が在籍。子育てについて相談する人がなく、子育てに不安をもつ保護者がいる。また、弟妹がいるため後援会活動に思うように参加できない保護者が多い現状を踏まえ、役割を分担し、自信をもって参加できる後援会活動をしている。

三 後援会の組織

執行部は会長、副会長二名、書記、会計で構成され、保護者は家庭教育学級委員会、広報委員会、交通委

員会のいずれかに属して活動をしている。

四 活動内容

家庭教育学級委員会「きらら」では市の公民館と連携し家庭教育学級を実施している。また、園の子育て講座への参加により、家庭教育力向上に努めている。

広報委員会「あおぎり」では後援会だよりの発行と、大型絵本の読み聞かせの場を提供。交通委員会「シグナルまざあず」では親子交通指導日を設け交通安全意識の啓発を行っている。

委員会活動の他に自分のできる範囲で分担し、園の行事や活動の手伝いを行っている。園外保育の付き添い、保育参加ママコースの発表会などがあり、中でも全保護者が参加す



る親子もちつき大会では初めて体験する保護者も、代々伝わる手順書や先輩の手ほどきを受けて手伝い、次年度には後輩につないでいる。また、お泊り保育でのファーザーズティーチャーの活躍は父親同士の絆を深めることができた。他に降園後の園庭開放での取組の紹介。

五 おわりに

長い年月の間、育まれてきた後援会組織及び活動を次世代に引き継ぎたい。伝統を守りながらも形を変え、一人一人が自分のよさを発揮し、充実した活動をしていきたい。

指導助言Ⅰ

文部科学省生涯学習政策局

社会教育課地域・学校支援推進室連携

支援係係長 長田 徹様



京都市立幼稚園PTA連絡協議会では、町ぐるみでノーテレビ・ノーゲームデーに挑戦し、教育活動への意義付けや親子のかかわりの質の向上に

大きな成果をあげられた。

加古川市立野口幼稚園では、先輩

ママは後輩ママを育て、ママが育つことで子どもも育ち、認め合い喜び合い高め合うというリレーが継続されていた。人づくり・地域づくり・組織づくりの本質であると感じた。

熊本市立熊本五福幼稚園では、チームでの取組を通し、互いの安心感が生まれていた。わが子の新しい芽を発見し、大人も新たな自分を見出すことにつながった。

共通しているのは、子育ての基盤は関係の深い大人とのふれあいが不可欠であり、大人が支え合い学び合うことが大切であるということである。

子育ては一人では背負うのではなく世代を超えて地域社会総がかりで支えるべきであり、一生涯を通じた教育・学習が大切であることを確認した。

指導助言Ⅱ

全国国公立幼稚園長会会長

池田 多津美様



京都市立幼稚園PTA連絡協議会では、十六園が一緒になって取り組むことでアイデアが生まれ、コミュニケーションが深まっていた。教育委員

会と懇談会を行い、市立幼稚園の現状を保護者の立場から行政に伝えることに成果を感じた。

加古川市立野口幼稚園では、親子のふれあいや愛着関係を形成するための活動を主軸にし、地域の様々な年代の方々との交流活動の中になれあいを広げていただいた。

熊本市立熊本五福幼稚園では、後援会長の熱い思いが活動を支えていた。少人数の良さを活かし、一人一人が自分のできることは何かを考え、役割を分担し主体的に参加できるようにしておられた。

どの発表も、子ども・子育て新システムの趣旨に沿うものとして十分機能している。子育ては親や家族、地域社会を基盤にしている。全ての子育て家庭を支援することがPTAに求められている。新システムの本来の目的に沿って機能させていくには、皆様のお力が一層必要となる。



シンポジウム
 テーマ
 「子どもインターフェース」
 — 二十世紀を生きる
 子どもたちへのメッセージ —

基調講演
 演題「アジア市民、地球市民としての夢と志を育てよう」
 — 二十世紀という時代の未来を展望して —

講師
 白梅学園大学学長
 東京大学名誉教授
 汐見 稔幸様



現代社会の最大の特徴の一つは、今までの人類の歴史の中で、その社会、文化、文明の変化のスピードが最も早い時代であるということです。変化の速度が速くなり、先が読めないわけです。

私たち親にとつては、このような変化の激しい時には、二十〜三十年後の社会を見すえ、社会に対応するいろいろな力を育てておかなければならず、しっかり考えながら子育てすることが大事になってきます。

我が国の人口構造の推移を見ると二〇五五年の人口は八九三万

わせ、これらの国で世界の人口の六割、七割を占める時代が来ます。二十〜三十年後の経済の中心は間違いなくアジアに移っていくと思います。

「アジアで上手に生きる子どもたちを育てる」ことは、現実化していきません。それは、大変なことではなくて、面白い時代が始まったと感じます。

さて、その中で日本の優位性をどう確保していくのかを考えていかなければならないわけです。少なくとも日本がアジアの中で国土は小さくても、たくましく生きていくためには、例えば、日本の商品は職人的な技で作った非常に優秀な物だと言われ続けるしかありません。或いは、どの国にもないようなアイデア豊かな物を作り、これが日本の優秀な特性だと言われる社会を作っていくければなりません。

今までアジアと共存することはあまり経験したことはなかったのですが、アジアと共存するというこの大事さ、そういう哲学を私たちは身につけていかなければなりません。

いろいろな人がこれから入ってくる、いろいろな人のところに私たちは出なければならなくなる。習慣も言語も宗教も違う人たちが一緒に生活するということを「生きにくい」と感じてしまったら、日本人は世界から孤立していくと思います。異なる

ということがおもしろい、違う文化をもっている人がいっぱいいると豊かになる、違いが豊かさのシンボルであるという感性を身につけなければ、うまくやっていけません。

同じであることに安心感を求めてきた日本、自己主張をするよりもおとなしく気を使うことが大事とされてきた日本など、私たちがこだわってきた価値観の変換をやらなければいけないということです。すなわち、人と違うことが持ち味であるという価値観に切り替えていかなければ、様々な価値観をもった人と共存していく人間を育てることができないのです。

これからはますます便利になり、具体性のないコンピューター社会になります。だから、それに適応してしまつと、生きるという喜びや、苦勞してやり遂げる喜びがなかなか味わえない人間になってしまいます。

そこで、逆にこういう社会は、徹底的に具体的な体験を、家庭や幼稚園でやっていかなければならないのです。

人間は適度なストレスを乗り越えることで成長します。子どもはちょっと頑張ればできるストレスがあり、それを乗り越えることで達成感を味わえます。十の力があるとすれば、十一や十二の力を発揮し、挑んだときに初めて起こる現象が発達です。十の力があるのに、七や八の力を発揮してできるということでは、発達は起こりません。

便利な社会は子どもを育てないのです。適当に不便である環境が子どもを育てます。そのことを意識して、改めて二十世紀に生きるという力を育てていかなければなりません。

コンピューターが入り、日常化してきますと、非常に便利になります。コンピューターは計算や記憶はできますが、感情をもったり感性で判断したりすることはできないのです。一人一人違う感情や感性をもつことは、コンピューターが大の苦手とするところ

です。その感情・感性を豊かに表現するということが教育、保育でますます大事になってきます。具体的な体験をいっぱいする中で、感動や感情をきちんと表現できるように子育てをすることが大事です。

かつての社会も、今の社会もモデルにはなりません。パネルディスカッションでは、これからの時代にはこういう力が大事になっていくということを、わいわい議論していただきたいです。時代の変化に適用するような子育てを考えていただきたい。これが私の問題提起です。

人で、二〇二〇年の現在は、約二億二七七七万人です。四十五年間に、三七八四万人の人口が減るのです。二十〜三十年後、皆さんが今育てているお子さん達が社会人として中心的に働き始める時には、日本は毎年、百万人位ずつ人口が減っていく社会になるといふことです。

ヨーロッパではすでに同じ難題を抱えており、そのために移民を認めています。今までの日本は、民族が違人がが上手に共存することはあまりなかったですが、社会の課題として、共存していかねばならない時代をやって迎えるのではないかと思います。

世界の人口を見ると、その半分近くを、インド・中国が占めてしまつて、いう時代がやがて来ます。そして、インドネシア、ベトナム・タイなども合

わい、現代社会の最大の特徴の一つは、今までの人類の歴史の中で、その社会、文化、文明の変化のスピードが最も早い時代であるということです。変化の速度が速くなり、先が読めないわけです。

私たち親にとつては、このような変化の激しい時には、二十〜三十年後の社会を見すえ、社会に対応するいろいろな力を育てておかなければならず、しっかり考えながら子育てすることが大事になってきます。

我が国の人口構造の推移を見ると二〇五五年の人口は八九三万

人で、二〇二〇年の現在は、約二億二七七七万人です。四十五年間に、三七八四万人の人口が減るのです。二十〜三十年後、皆さんが今育てているお子さん達が社会人として中心的に働き始める時には、日本は毎年、百万人位ずつ人口が減っていく社会になるといふことです。

ヨーロッパではすでに同じ難題を抱えており、そのために移民を認めています。今までの日本は、民族が違人がが上手に共存することはあまりなかったですが、社会の課題として、共存していかねばならない時代をやって迎えるのではないかと思います。

世界の人口を見ると、その半分近くを、インド・中国が占めてしまつて、いう時代がやがて来ます。そして、インドネシア、ベトナム・タイなども合

わい、現代社会の最大の特徴の一つは、今までの人類の歴史の中で、その社会、文化、文明の変化のスピードが最も早い時代であるということです。変化の速度が速くなり、先が読めないわけです。

私たち親にとつては、このような変化の激しい時には、二十〜三十年後の社会を見すえ、社会に対応するいろいろな力を育てておかなければならず、しっかり考えながら子育てすることが大事になってきます。

我が国の人口構造の推移を見ると二〇五五年の人口は八九三万

人で、二〇二〇年の現在は、約二億二七七七万人です。四十五年間に、三七八四万人の人口が減るのです。二十〜三十年後、皆さんが今育てているお子さん達が社会人として中心的に働き始める時には、日本は毎年、百万人位ずつ人口が減っていく社会になるといふことです。

ヨーロッパではすでに同じ難題を抱えており、そのために移民を認めています。今までの日本は、民族が違人がが上手に共存することはあまりなかったですが、社会の課題として、共存していかねばならない時代をやって迎えるのではないかと思います。

世界の人口を見ると、その半分近くを、インド・中国が占めてしまつて、いう時代がやがて来ます。そして、インドネシア、ベトナム・タイなども合

パネリスト

愛媛大学教育学部
附属教育実践総合センター長

平松 義樹様

全国国公立幼稚園長会副会長

荒木 尚子様

墨田区立第三寺島幼稚園
保護者

藤江 裕美様

NPO法人
女性と子どものエンパワメント関西
理事長

田上 時子様

コーディネーター

白梅学園大学学長
東京大学名誉教授

汐見 稔幸様

(汐見)

「インターフェース」という言葉は「接面」と訳されます。子どももインターフェースというのは、子どもが社会を見るときにどう見えているのか、見えやすさをどう用意していくのか、子どもの社会とのインターフェース(繋がり)をどう私たちが作ってあげればいいのか、そういうことを考えてみましょう。

(平松)

二つ目の提案は、「子どもインターフェース」、「TNP」低燃費教育論を提唱します。テレビに子守をさせない。「T」は、受け身の人間をつくりません。

「N」というのは、学び合いとか、高め合いとかいう、物語性の視点で子どもを見る。そして「P」パートナーシップ。子どもは親御さんの愛玩動物ではありません。ある時代、ある年数、共に生きるパートナーであるという感覚で子どもに接する。

(田上)

少しのエネルギーで子どもが育つ、たくさん育つ、大きく育つ。こういう取組をすべきだと思います。(荒木)

現代社会では、親は育児の中心ですが、親だけで育児ができない時代になつてきている今、みんなで支え合ひましょう。

学校教育としての幼児教育は、集団の中で自己を確立して生きる力を育てていくことだと思います。その中で育てることは、自主性、主体性、社会性だと思います。キーワードとしては「繋がり」だと思っています。(藤江)

親子の関係では、軸足を子どもにも置くのではなく親に置くことを、ペアレンティングといえます。親教育です。親の役割というのは子どもの手本。見本になり、子どもの気持ち、感情を聞き、認めることです。



(汐見)

「あなたは〜してはいけません」というメッセージを子どもに向けるのではなく、「あなたはこんなことができのよ」というメッセージが日本に非常に少ない。自分の子どもを変えて欲しいところは、いいところがいっぱいあるというのが、親だと思います。

(平松)

これからの社会は、人々が何かを創ることがこれまで以上に必要になってきます。今回の東日本でのボランティア活動のグローバルとローカルの中間である「グローバル」に、いかに生きる子どもを育てるか、ということ。そして、共に、という社会の中で、均質なみんなを育てるのではなく、「一人一人違った良さをもつみんなを育てる」ということを求めて教育実践すべきだと思います。(荒木)

(田上)

私は、「底力」と「絆」をずつつなげていきたいです。海外に出ていく強さや自信は自分のもつ力を磨くことだと思います。少し高い挑戦に向かっていく中で自信をつけていくことが、これからアジアの中で地球の中で生きていく子どもたちにとって、一番大切なことだと思います。

家庭で自分が子どもにどのような生活をしてグローバル人間にすればいいか、皆目、見当もつきません。まずは、子どもがもっている夢をどう育んでいくか、子どもの夢を壊さないようにして、そこから自分のやりたいこと、感じることが出てくると思います。(藤江)

「絆」という意味では日本には昔ながらのコミュニティが色々あったのですが、それが様変わりして、新しい環境の中にも昔ながらの良さというものを、新たに作っていく力が必要だと思います。それは、幼稚園を地域の核とするので、新たな絆、コミュニティというものができていくように思っています。

物で心は育ちません。子どもの幸せを願うなら、感じる力をつけることです。親子が一緒に遊び、体をふれ合い、自然を感じていくことです。完璧な親になる必要はありません。グッドイナプの気持ちで、失敗してもやり直しをすることを認めてくれる親を子どもは望んでいます。頑張ってください。(汐見)

メッセージとして、二つ目は、人間関係の豊かな中で子どもを育てていくこと、二つ目は自尊感情のモデルを示し「できるじゃない」とポジティブに子どもたちを応援していくことです。

二十年後、三十年後、どんな社会になったとしても、何とかみんなでやっていけるといふ人と人との深い結びつき、「何とかやれる」といふ自分に対する信頼感を丁寧に育てることが、これからの私たちの課題ですね。

平成二十三年度 陳情報告

平成23年7月6日、全幼P万里小路会長、全国国公立幼稚園長会副会長、同事務局局長、全幼P役員の計14名が午前10時から文部科学省へ陳情を行った。

文部科学大臣は不在であったが、ご多用の中、板東生涯学習政策局長、作花生涯学習総括官、塩見社会教育課長、伯井初中等教育局財務課長の皆様にお目にかかり、温かく対応していただいた。局長・総括官には、懇談の中で、幼稚園の現状をご理解いただくことができた。

要望事項

一 国策として、幼稚園教育振興・充実を図っていただきたい。

公立幼稚園未設置市町村が、全国で八六二(四九%)あります。これから未設置市町村を解消し、幼稚園教育を希望するすべての幼児が完全に就園できるように、次の項目を強く要望します。



1 市区町村に対する公立幼稚園設置義務化のための法整備

2 三年保育の実施拡大

3 財政難を理由にした幼稚園の統廃合抑制・民営化の阻止

4 幼稚園における子育て支援及び預かり保育のための財政措置

二 幼稚園教育環境の整備・拡充を図っていただきたい。

1 専任園長・教頭、養護教諭、事務職員の配置

2 発達の特性に応じたきめ細やかな指導をするための教員数確保

3 都道府県及び市区町村教育委員会に於ける幼児教育専門の指導主事の配置

4 安全管理・危機管理の人員・施設・設備等の改善

5 幼稚園施設の耐震化推進

公立幼稚園は小・中・高等学校と教育環境において様々な格差があります。幼稚園教育充実のため、人的、物的、及び、制度的環境の整備拡充がなされるよう、次の項目について特段のご高配をお願いします。

平成二十三年度 理事会報告

第一回

期日 八月三日(水)

場所 大阪国際会議場

「国際交流都市」大阪を象徴する近代的な会場で、各県の代表による熱気あふれる理事会が行われた。

万里小路会長、池田顧問の挨拶の後、大阪大会矢原運営委員長から大会の概要説明があり、引き続き議事を行った。平成22年度会務・決算報告、本年度活動方針・事業計画・予算の報告、全幼P会長表彰・会長感謝状贈呈について報告をした。次年度東京大会実行委員長より、開催地の取組の説明があった。平成25・26年度提案県について協議が行われた。

役員改選については、各ブロックから選考委員を選出し、委員により役員が選出され、理事会で報告された。

第二回
期日 十二月十六日(水)
場所 ホテルセントノーム京都

万里小路会長、池田顧問の挨拶の後、大阪大会運営委員長からお礼の挨拶があり、成功裡に終わったことを確認した。

第二回

期日 十二月十六日(水)

場所 ホテルセントノーム京都

万里小路会長、池田顧問の挨拶の後、大阪大会運営委員長からお礼の挨拶があり、成功裡に終わったことを確認した。

金募集活動と義援金配布の報告があった。また、大関副会長より秋田県幼Pの震災支援活動(絵本の「えん」むすびプロジェクト)についての報告があった。

次期開催地の高森実行委員長より、第二次案内に基づき概要の説明をされた。会長より全幼P設立五十周年記念式典についての趣旨と概要の説明があった。

続いて、平成24年度の活動方針、事業計画、陳情書の各案を協議した。平成26・29年度の大会開催地の確認を行い、秋田県、愛知県、熊本県、滋賀県に続いて、平成30年度は徳島県が確定した。

議事終了後、ブロック別の交流会を行った。

第三回は、平成24年3月7日(水)東京都墨田区錦糸町AIGタワーにおいて開催の予定。



おめでとうPTA

平成二十三年十二月十八日、文部科学省において、優良PTA文部科学大臣表彰式がありました。栄えある文部科学大臣表彰を受けられた9団体の中から、紙面の関係で、ここに2園のPTA活動を紹介いたします。

子どもの健やかな成長を願って

群馬県東吾妻町立岩島幼稚園

園長 岩瀬 秀樹

◎はじめに

この度、平成二十三年度優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。会長とともに表彰式に参加して、あらためて受賞の栄誉を心に刻み込みました。歴代の教職員や保護者の皆様のおかげと感謝しております。小学校や中学校の保護者の皆様にも会長や校長を通してお礼を申し上げます。

本園は、十二年前に岩島第一幼稚園と岩島第二幼稚園が岩島幼稚園として統合されて発足しました。小学校の統合とあわせて、岩島小学校と同じ敷地内に建てられています。地域のPTAとしての絆は強く、四月には幼小中のPTA合同の教職員歓迎会も恒例となっています。岩島地区は、麻の生産地としても

知られていますが、緑に囲まれた美しい自然豊かな地域です。園児数は、三歳児・四歳児・五歳児と合わせて二十七名です。教職員は六名、PTA会員は二十三名、協力し合いながら幼児の健やかな成長を願って活動しています。

◎PTA活動の中から

《家庭教育学級と収穫祭》

家庭教育学級は、年間二回開かれています。それに合わせて園児が栽培したじゃがいもやサツマイモなどを使った収穫祭も同時に行っています。

《家庭教育学級の持ち方は年度ごと

と工夫され、講師を招いての親子交流や役員が創意工夫したゲームなどが行われています。収穫祭へ向けての準備も役員を中心に保護者が協議を重ねながら計画を進めています。

本年度、第二回目の家庭教育学級では、郡の社会教育主事の先生を講師に親子で体操遊びをしました。収

穫祭では、野菜たっぷりのカレーを親子で楽しく味わって食べました。収穫祭には、園評議員をはじめ、中学校の校長先生、公民館長さんにも来て頂いて交流を深めました。お母さんたちに教わりながら、園児も調理などに参加したのでいつそうおいしく食べられたようです。

二回目は、ヨガ・コーディネーション遊びを、小学校の体育館を会場に行い、快い汗を流しました。園庭で焼いた焼き芋にも舌鼓をうちました。



《小学校と合同の運動会》

岩島地区は、文科省指定二カ年の人権教育総合推進地域事業にも指定されています。人権感覚の芽生えを醸成するのが幼稚園のねらいの一つですが、そのために異年齢交流には特に重点的に取り組んでいます。運動会では、親子競技の中に人権を意識した競技を組み込みました。

「ありがとう」の文字入りのマン

トを着た園児に、保護者が「ありがとう」の言葉を伝え、園児も感謝の気持ち言葉を返します。伝え合った後はおんぶしてゴールを目指しました。



《もちつき》

もちつきは、統合前の二園でも行われており、長く続く伝統の行事でもあります。もちつき体験、あんこ入りのもちをまるめる体験、野菜を刻んでのけんちゃん汁つくり等、多くのことを親子で行います。収穫祭と同じように、ふだんお世話になっている地域の方々を招いて、楽しい食事会で交流を深めます。

材料の準備、当日の段取り等、役員の方々を中心に、みんなが協力をして行う行事です。

《文集「つくし」の発行》

一年間のまとめとして、文集を作

成します。表紙・内容・発行までの日程・印刷・製本・配布など、細かな準備作業を経てできあがります。手作りのオリジナルの表紙には、文集作成の熱意が特に現れています。準備作業の記録は、ノートにきちんと整理しておき、次年度の参考にしています。



◎おわりに

園の統合、そして新園舎からの新しいスタートと保護者がまとまって活動してきたこの十数年でした。地道な活動をしている本園のPTA活動ですが、少子化の影響で園児数ももちろん、PTA会員も激減している等、課題もあります。しかし、今回の受賞を励みにして、同じ岩島地区の子を持つ親として小学生や中学生の保護者とも協力して、今後も歩いていこうと思います。

心豊かな子どもたちに

佐賀市立本庄幼稚園

PTA会長 小峠仁志

この度、平成二十三年度優良PTA文部科学大臣表彰を頂き、誠に光栄であり喜ばしい限りです。この栄誉は歴代の保護者の皆様や当幼稚園の園長先生をはじめとする先生方及び地域の皆様の温かいご支援とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

本園は、佐賀市の南部に位置し、佐賀市立本庄小学校や本庄公園と隣接する佐賀市で唯一の公立幼稚園です。周辺には広々とした田園が広がり、緑も多く自然に恵まれた環境にあります。創立五十四年を迎え、三歳児クラス、四歳児二クラス、五歳児二クラス、園児数は百十九名です。遊びを通して「感性豊かで明るく活動する子ども」の育成を目標に環境を生かした保育、積極的な地域行事への参加、小学校との二貫教育の推進、開かれた子育てサロン、地域力を生かした花育や陶芸教室などの活動を行っています。

「家族」役のPTA活動

PTA組織は、各クラスから代表として選出された役員で、会長一名、副会長四名を本部役員として構成しています。そして全家族がパワー委員（夏祭り・運動会）、ほのぼの委員（サー・餅つき）、クラス委員（交通安全教室・落ち葉拾い散歩）の三つのどれかに所属しています。全会員がPTA

活動に携わり、事前の話し合いは母親が、力のいる本番は父親がするという家庭内の協力体制やクラス間の協働体制を構築していく目的をもちています。

「健康を願う」

手作りおみこしで夏祭り

朝からパワー委員が集まり、やぐらの設営やポン菓子作りは父親委員、ヨーヨー風船やお店屋さんコーナーは母親委員が協力して準備します。夕方、園児たちは、まず、縁日遊びを満喫します。その後、佐賀の伝統の「葉がくれ太鼓」の大きな音や振動を身体全体で感じ、感動を家族みんなで共有します。そして、年長児制作のおみこしが「わっしょい」の掛け声と共に登場し、年中児、年少児のお囃子隊を引き連れ、夏祭りを盛り上げていきます。その後、役員が持ち上げたおみこしの下を全園児が健康を願って駆け抜けていきます。

続いて親子で盆踊りを楽しみます。辺りが暗くなった頃に、父親委

員による打ち上げ花火、しかけ花火の見事な噴出に、子どもたちは大感激の中、夏祭りが幕を閉じます。

みんなで楽しく参加する運動会

十月の運動会では、前日まで保護者競技の計画や用具や配置の準備を主に母親委員がします。当日のテント等の会場設営や用具の出し入れ、競技補助は父親委員が行います。夫婦間の息の合った連携がポイントです。その中でも父親による「飴食いりレー」は毎年恒例の大人気の競技です。園児の屯所前の「お立ち台」で真っ白な顔で飴をくわえた父親が、思い思いのポーズで笑いをとり、その場を盛り上げます。他には母親、祖父母、卒園児、未就園児の競技があり、会場が一体となり盛り上がります。また、年長児は小学校の五年生から教えてもらった佐賀伝統の踊り「面浮流」をカッコよく披露してくれました。後日行われた地域の運動会でも披露しました。

サッカー教室とほのぼのバザー

佐賀県のプロサッカーチーム「サガン鳥栖」の選手にまでもらい、隣接する本庄公園グラウンドで、選手たちにサッカーを教わりながら親子で触れ合いを楽しみます。選手と園児のサッカーゲームの後、父親チームと「サガン鳥栖」の選手が対戦します。熱の入った力強い試合に会場は段と盛り上がりがあります。普段できない貴重な体験です。終了後、幼稚園でほのぼの委員の母親が中心となつて準備を進めてきた「ほのぼのバザー」が始まります。各家庭から拠出していただ



いた日用品、衣類、手作り品、採れた野菜や果物、近隣企業から提供頂いた協賛品等が並び、会場がいつき賑わいます。また、食べ物コーナーでは、母親委員が作る、うどんやおにぎり、パン、コーヒール等を販売し、運動後のお腹を満たします。他にも皆が喜ぶくじ引きやカラフルな綿菓子、お気に入り写真で作る缶バッジは思い出に残る一品になりました。また、ダンボールトンネルや新聞プールは、子どもたちが思いきり遊べる空間となり大喜びでした。

「子どもたちも楽しめるバザーにしよう。」と本部役員やほのぼの委員が知恵を絞り、力を結集した賜物です。役員も大満足でした。バザーの収益金は、年長児の卒園記念品制作「陶芸教室」の補助や保育環境のさらなる充実のために活用します。

「バルーン係留体験」(十月)

隣接する本庄公園で、毎年「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」が開催されるのに先駆けてバルーンの

係留体験飛行を行います。N.T.T.西日本の方々のご協力の下、バルーンのパケットの中に四〜五名ずつが機上し、佐賀平野を一望できる地上十数メートルの位置で、全園児や希望する保護者たちが係留を楽しみます。

PTA役員はバルーンの準備、搭乗補助、後片付け等の手伝いをします。



《おわりに》

PTA活動を通して保護者同士や教師が協力し合い、和気あいあいと楽しむ姿は、子どもたちにも自然に温かさが伝わり、園生活や家庭生活がより一層明るく元気になります。また、地域行事に積極的に参加することで信頼関係が深まり、地域の様々な人とのつながりの中で子どもたちが育っている喜びを実感することができます。

今後心豊かな子どもたちを育てるために、共に育ち合い、成長していけるようなPTA活動を目指していきたいと思っております。



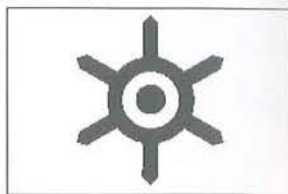
全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会章

第50回全国国公立幼稚園PTA全国大会東京大会 全国国公立幼稚園PTA連絡協議会 設立50周年記念式典

大会主題 「大地のような子どもを育てよう」
～TOKIO(時)を越え 未来をつなぐ 江戸しぐさ～

期日 平成24年7月30日(月)・31日(火)

場所 すみだトリフォニーホール



東京都紋章章

明治22年に東京市のマークとして決定され、昭和18年の東京都制施行に際し、東京都の紋章として受け継がれてきたものです。東京都の発展願い、太陽を中心に6方に光が放たれているさまを表し、日本の中心としての東京を象徴しています。

第五十回全国国公立幼稚園 PTA全国大会東京大会

東京大会運営委員長 今井 昇

第50回全国国公立幼稚園PTA
全国大会・東京大会の運営委員長、
今井昇と申します。会員の皆様には、
ますますご清祥のこととお喜び申し
上げます。

来る平成24年7月30日・31日両

日、第50回全国国公立幼稚園PTA
A全国大会・東京大会並びに設立

50周年記念式典を東京は墨田区
で開催します。大会・式典は、すみ

だトリフォニーホール、情報交流会
は会場隣の東武ホテルバント東京

にて行います。また、会場から徒歩
で行ける距離に世界一の高さを誇る

電波塔スカイツリーを始め、相模
の両国国技館、江戸東京博物館が

あり、少し足を伸ばせば浅草へと
江戸情緒・下町風情満喫の立地条

件です。

第50回東京大会の午前中には、

設立50周年記念式典を開催します。

節目の50年、半世紀に渡り、国公立
幼稚園PTAに携わった総ての方々
に感謝をし、共に祝い、これから先
の50年を考えていく、良い機会にな
る事と思えます。

式典には、秋篠の宮殿下妃殿下、

文部科学大臣のご臨席も予定さ
れています。

大会主題は「大地のような子ども
を育てよう」～TOKIO(時)を
越え未来へつなぐ 江戸しぐさ～
です。

抽象的なテーマですが、十数年前
から「大地のようにたくましく、心

豊かに育み、和をもって互いに共生
する」を建前に東京都公立幼稚園

PTA連絡協議会は、活動してきま
した。また、先の見えない閉塞感の

ある世の中、古き良き時代の知恵
を今の子ども達に伝え活かそうと

近年江戸しぐさが注目されました。

皆様ぜひ今大会に

元々は江戸時代・商人の処世術で
倫理観、道徳律、約束事などがあり、
庶民が和を持って仲よく共に生き
ていく知恵でした。これぞまさしく、
東京都公立幼稚園PTA連絡協議
会の理念であります。

長年に渡り、幼児期の教育の重
要性が言われてきました。保護者
の価値観の違い、ニーズの多様な
現状では、全国の国公
立幼稚園には我々の思い
と逆行して、大変に厳し
いものがあります。私立、
公立、保育園、認定子ど
もの園等、それぞれの良
さを認識しつつ、子ども
を持つ親として様々な選
択肢は、残しておいてほ
しいものです。

半世紀以上の歴史の中

で、ぶれずに築いてき
た国公立幼稚園PTA
の活動には、我々はもっ
と胸をはって、もっともっ
と自信を持っていい気が
します。

皆様ぜひ今大会に

